



ハーブ通信

2008年

11月号

(第30号)

<http://www.hurp.info>

HuRP連続企画／原文にふれて学ぶ人権・平和そして人間

人権・平和のための語学教室

2008年11月19日

第1回 ティグリニヤ (Tigrinya) 語
講師 ルソム・テクレ
(Rusom Tekle Kidane)さん

さまざまな言語で書かれた、人権や平和についての文章を原文で読んでみませんか？

その国の豊かな精神文化にふれて、毎回、何かひとつ言葉を覚えて帰れば、それまでと違った視点で物事を見ることが出来るかもしれません。

同時に、「人権や平和の尊重」のテーマは、世界共通の普遍的なものであるということを確認する機会になるのではないのでしょうか。

記念すべき第一回は、ルソム・テクレさんに、ティグリニヤ語を教えてくださいました。



ティグリニヤ語は、エチオピア・エリトリアのティグリニヤ人が用いる言語で、エチオピアでは3番目、エリトリアでは最も話される言語です。

始めに、日本でいう50音の表が配られ、「平和(サラム)」という言葉をお教えしてくれました。

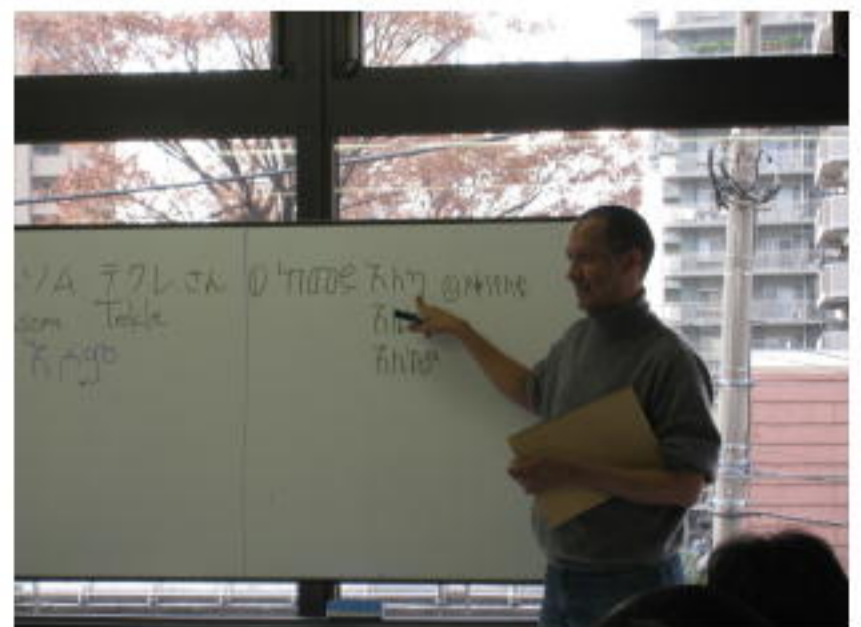
ルソムさんは、「植民地問題は現在も続いている



す。アフリカは元々多くの種族がくらしていて、そこにヨーロッパ諸国が植民地獲得のため侵略してきました。アフリカの『国』と呼ばれるもののほとんどは、植民地時代に作られたものです。第二次世界大戦を経て、それが元で、同じ民族であるにも関わらず、国境で紛争が起きたりしています」と、アフリカが抱えている問題について話しました。

エチオピアとエリトリアは第二次大戦後紛争が勃発し、現在もにらみ合いが続いています。

そして、未だに国境に軍隊が置かれ、国交が回



復しない現状を「同じ言語で同じ民族の人たちがなぜ争うのか。同じ言語、同じ民族なら平和をつくることは難しいことではないはずです」とうったえかけました。

そのあとは、「今はタマゴだが将来鳥になる（ラブザハン・ウンカ・コホ・ナハムタ・ドルホ）」といったことわざや、「こんにちは（ケメイ・アンラフィ※男性形）」、「さようなら（ラハン・クヌ※男性形）」や、数字を教えてもらいました。

最後は全員で「ありがとう（イエカンニェル）」を言い、終了しました。

それまでまったく知らないアフリカの言語にふれ、同時にその言語を母国語にもつ人たちが抱えている苦しさを知ることができて、よかったです。これからも、いろいろな国の人をお招きして、様々な言語を聞きたいと思いました。

(T本)

「リーマンに負けず働き続けよう！ 廃業・解雇反対、自主営業30日集会」

2008年11月21日

黒字を出している自分の会社から突如解雇を言い渡されたら、どうしたらいいのでしょうか。

品川駅の高輪口（西口）を出て目の前に、高いビルの中に歴史を感じさせる建物が見えます。

京品ホテルは1871年（明治4年）に旅館として開業し、現在の建物は1930年（昭和5年）に建築された歴史のあるホテルです。



バブル期に社長が抱えた60億円の借金返済のため、ホテルを売却する契約が交わされました。突然従業員全員の解雇とホテルの廃業が言い渡されました。従業員は組合を結成し、団体交渉を行いました。テレビのニュースや経済番組などで、この問題がたびたび取り上げられているのでご存じの方も多いのではないのでしょうか。

10月20日、経営者はホテルの廃業と従業員の全員解雇を正式に発表しましたが、従業員はこれに対して地位保全の裁判を起こすとともに、自主営業を開始しました。そして30日が経ち、ホテルの屋上で上記の集会が開かれました。

全国ユニオンの安部さんは、黒幕のリーマンブラザーズのペーパーカンパニーであるLCホテルズが

「京品実業との売買契約を解除した」という報告を受け、「たたかう途ができた。支部メンバーのたたかう決意が強まっている」と述べました。

評論家の佐高信氏は「これはアメリカからかすりとられている現状、いわばアメリカとのグローバルなたたかいなのです。そして、働く人が経営までも担う、これがあたりまえの姿だということです。労働の原点に立ったたたかいなのです」と激励しました。

社民党の保坂展人衆議院議員は「このような非道がゆるぎない。キーボードをたたくように人を扱う、人間を人間扱いしないことへの反感がたくさんある」と述べました。

そのほかたくさんの方々が激励のメッセージを寄せられました。中には、つい一週間前に解雇された人や、あと2年で契約更新が切られるという



人からの声もありました。

最後は「ベンセレモス」（チリの人民連合政権のテーマソング）、「We Shall Overcome」（アメリカ公民権運動の時などに歌われた）を合唱してしめくりました。

集会の後、ビラ配りをお手伝いし、和食料理店「いの字」で HuRP 会員と労働法の武井寛教授で食事をいただきました。たいへんおいしかったです。帰り際に料理長でホテルの組合長の金本さんが「ありがとうございます。がんばります」とおっしゃったのがたいへんうれしかったです。

これからどうなるかは予断を許しませんが、泣き寝入りだけは絶対にしないという意思がホテルの皆さんを支え、それが市民に伝わっている限り、き



とよい方向に向かっていくれるものと思いました。
(T本)

news;

新企画！『人権・平和のための語学教室』 のお知らせ

さまざまな言語で書かれた、人権や平和についての文章を原文で読んでみませんか？

その国の豊かな精神文化にふれて、毎回、何かひとつ言葉を覚えて帰れば、それまでと違った視点で物事を見ることが出来るかもしれません。

はじめにご紹介しましたとおり、第1回を開き、ルソム・テクレさんにお話やティグリニャ語の簡単なレッスンをしていただきました。次回は来年2月を予定しています。詳細が決まり次第、この会報やHPにてお知らせしますので、ぜひご参加ください！



第1回に配られたノート。ここにレッスンの内容を書き込んでいきました。

news;

『08年秋！憲法を本質的に考えるリレー レクチャー』のお知らせ

HuRP の理事長で、法学館憲法研究所首席客員研究員の浦部法穂教授と、同じく理事の水島朝穂教授が講師を務める『08秋！ 憲法を本質的に考えるリレーレクチャー』をご紹介します。ふるってご参加ください。

戦後最大の曲がり角ともいえるこんにち、戦後社会に果たしてきた日本国憲法の役割について、憲法の基本的考え方から捉え直すことがいよいよ重要となっています。07年に憲法改正の手続法が制定され、憲法改正国民投票が将来実施されることも念頭に、憲法について本質的に考えてみます。

【日時・テーマ・講師】

第4回 12月6日(土)13時~17時

「世界史の中での日本国憲法の意義」

講師：浦部法穂氏

(名古屋大学教授・法学館憲法研究所首席客員研究員)

協賛：歴史教育者協議会

【会場】 伊藤塾高田馬場校（高田馬場駅早稲田口から徒歩3分）

【入場料】 各回 1000 円（法学館憲法研究所賛助会員・学生・伊藤塾塾生は 500 円）

<全4回通しで参加される方は 3000 円（法学館憲法研究所賛助会員・学生・伊藤塾塾生は 1500 円）>

【主催・問合せ先】

法学館憲法研究所

電話 03-5489-2153 fax 03-3780-0130

E-mail info@jicl.jp

カラダに平和を 自炊のススメ

30 粉ふきいも

11月29日に開かれた語学教室の催しの後、理事の串崎さんのお宅でホームパーティーを開かせていただきました。その時に、わたしは粉ふきいもを作ることになっていて、皆さんに召し上がってもらいました。

材料：じゃがいも、塩、バター（はちみつ）

手順：

1. じゃがいもの芽を取って皮をむき、ひとくち大の大きさに切る。
2. 水にさらしてあくを抜き、鍋に入れてひたひたになるくらい水を入れて、火にかける。
4. 煮立ってきたら、中火にして、5分~10分くらい煮て、はしや串でぶすっと刺せるくらいになったら火を止めて30秒くらい待つ（余熱で火を通します）。
5. 鍋にフタをしてソース焼きそばのようにお湯をこぼして、フタを閉じたまま鍋を思いっきり振る。

お好みで塩、バターをつけてできあがりです。皆さんにもおいしいとっていただき、とても良かったです。簡単でおいしくできますので、ぜひ試してください！



時の経つのは早いもので、一気に葉っぱが色づきました。この秋は、他にも「さらば戦争映画祭」や「フツの仕事がしたい」など、たくさん映画を見ましたので、近いうちにご紹介します。おたのしみに！（写真は家の近くの公園です）

(T本)



特定非営利活動法人「人権・平和国際情報センター」(HuRP: ハーフ)
Human Rights and Peace Information Center JAPAN (HuRP)

〒101-0065 東京都千代田区西神田2-7-6 川合ビル41号室 TEL&FAX 03-3234-3231
e-mail hurp@hurp.info HP <http://www.hurp.info/>